



鳩山町長 小川 知也氏

町長のメッセージ

鳩山町は、2025年7月8日に「交通死亡事故ゼロ6,000日」を達成するなど、安全・安心なまちづくりを着実に進めています。また、埼玉県の健康指標「65歳健康寿命」では県内トップレベルを誇り、住民の皆さんのが心身ともに健やかに暮らせる快適で豊かな環境を整えています。子育て支援にも力を入れ、幼児教育や福祉の充実により、子どもを育てやすい町としての魅力をさらに高めています。これからも、すべての世代の方々が安心して暮らせるまちの実現に向け、町民とともに歩んでまいります。

はじめに

鳩山町は埼玉県のほぼ中央に位置し、北はときがわ町と嵐山町、西は越生町、南は越辺川をはさんで坂戸市と毛呂山町、東は東松山市に接している。都心から50km圏内にありながら、丘陵に囲まれた自然豊かな里山の風景が残っている。

当地の歴史は古く、鳩山町を中心とする比企丘陵周辺には、良質な粘土層が広がっていたことなどから、7世紀前半から、須恵器（表紙写真）や瓦などを生産する窯や工房がつくられた。奈良時代には、武蔵国分寺の瓦を大量に生産するとともに、当地でつくられた須恵器が広く関東地域に流通したが、平安時代になると、その生産規模は縮小していく。中世には鎌倉街道上道が町のほぼ中央を通り、近世には河川を利用した水運も盛んで、物資の集散地、宿場町としてにぎわった。

1889年に町村制施行で誕生した亀井村と今宿村が1955年に合併、両村の中央にあった「鳩山」の地名をとって鳩山村と名付けられた。高度経済成長に伴い、1970年代以降は東京のベッドタウンとして宅地開発が進んだ。鳩山ニュータウンとよばれる12,000人規模の新興住宅街が形成され、1974年から入居が始まり、人口が急増。1982年の町制施行により鳩山町となった。

町内には鉄道駅がなく、国道も通っていないが、自然に恵まれ、静かで治安が良く、災害も少ないと町民の幸福度が高い町として知られている。

安全・安心な町

埼玉県は比較的、地震や風水害等の災害が少ない。特に鳩山町は地盤が安定しているといわれ、大きな災害が少ない町である。町内には繁華街などもなく、犯罪率が低い状態が続いている。

交通安全啓発活動に積極的に取り組んでおり、2009年2月3日以降「交通死亡事故ゼロ」を継続中である。2025年7月8日に交通死亡事故ゼロ記録6,000日を達成した。この記録は県内の自治体で第一位の記録であり、「安全・安心なまち」を象徴するものとなっている。

西入間交通安全協会鳩山支部など、関係団体と連携したまちぐるみの交通安全啓発活動の輪が地域や学校、家庭の中に広がったことで、交通安全の意識が町民一人ひとりに根付いたほか、主要道路等への防犯カメラの設置などが、大きな成果につながった。



広大な鳩山ニュータウン

鳩山町概要

人口(2025年11月1日現在)	12,549人
世帯数(同上)	6,066世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	57.3歳
面積	25.73km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	23所
製造品出荷額等(同上)	58.3億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	54店
商品販売額(同上)	97.9億円
公共下水道普及率	68.0%
舗装率	44.2%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 坂戸駅 高坂駅からバス利用
- 関越自動車道 鶴ヶ島ICから町役場まで約10km
坂戸西スマートICから町役場まで約6km

★ 健康寿命、県内トップクラス

埼玉県では、65歳に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間、具体的には、介護保険制度の「要介護2以上」になるまでの期間を「65歳健康寿命」として算出している。2023年の埼玉県65歳健康寿命で、鳩山町の男性は10年連続して県内1位、女性は2位となった。

鳩山町では、町民の健康寿命の延伸に向けて、「栄養」、「運動」、「社会参加」の3本柱を中心とした積極的な取り組みを行っている。この3本を連携させた取り組みは「鳩山モデル」といわれ、健康づくり事業や介護予防事業を推進してきた。近隣の大東文化大学、女子栄養大学、武蔵丘短期大学の運動、健康づくり、栄養などの専門の学部と協定等を結び、さらなる健康づくり事業に取組んでいる。

「鳩山モデル」の大きな特徴として、「社会参加」の推進があげられる。高齢者のボランティア育成・支



みんなで健康づくり

援、起業支援、就労支援、就労の場の提供などを行い、「健康長寿のまち」をさらに生涯現役として活躍できる「生涯活躍のまち」を目指している。長年のこうした取り組みが、健康寿命の延伸に加え、埼玉県内で最も安い介護保険料につながっている。

★ みんなで作った「鳩山町少子化対策チャレンジプラン」

日本全体で少子化が問題となっているが、鳩山町の状況をみると、2025年1月1日現在、年少(15歳未満)人口割合は6.8%と埼玉県全体の11.2%に比べ少なく、2024年の出生者数は24人と県内で6番目に少ない。こうした状況下、町では先進事例等の研究に加え、多くの町民の意見を参考に「鳩山町少子化対策チャレンジプラン」を策定した。鳩山町少子化対策チャレンジプランは「ライフステージに応じた一貫した総合的支援と子育て世帯の移住促進」を基本理念として、「結婚前・結婚」、「妊娠・出産・産後」、「就学前」、「就学後」の各ステージにおいて、子育て世帯に対する経済的支援、ケア・サポート、働きやすい環境づくりを行うものとしている。これらの実施を通じ、子育て世帯の移住を促進し、2023年度の人口をベースに2030年度には年少人口を中心に人口増加を目標とする計画である。

鳩山町では、安全・安心なまち、健康長寿のまち、子育てにやさしいまち、そしてすべての人が暮らしに幸せを感じるまちの実現に向けて、町民一体となってまちづくりが日々進んでいる。

(吉嶺暢嗣)